

TOTO

リモデル便器

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

安全に関するご注意 (安全のために必ずお守りください)

施工の前に、この「安全に関するご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。
この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
	注意 この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	禁止 は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「禁止」を示します。		必ず実行 は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。
--	--	--	---

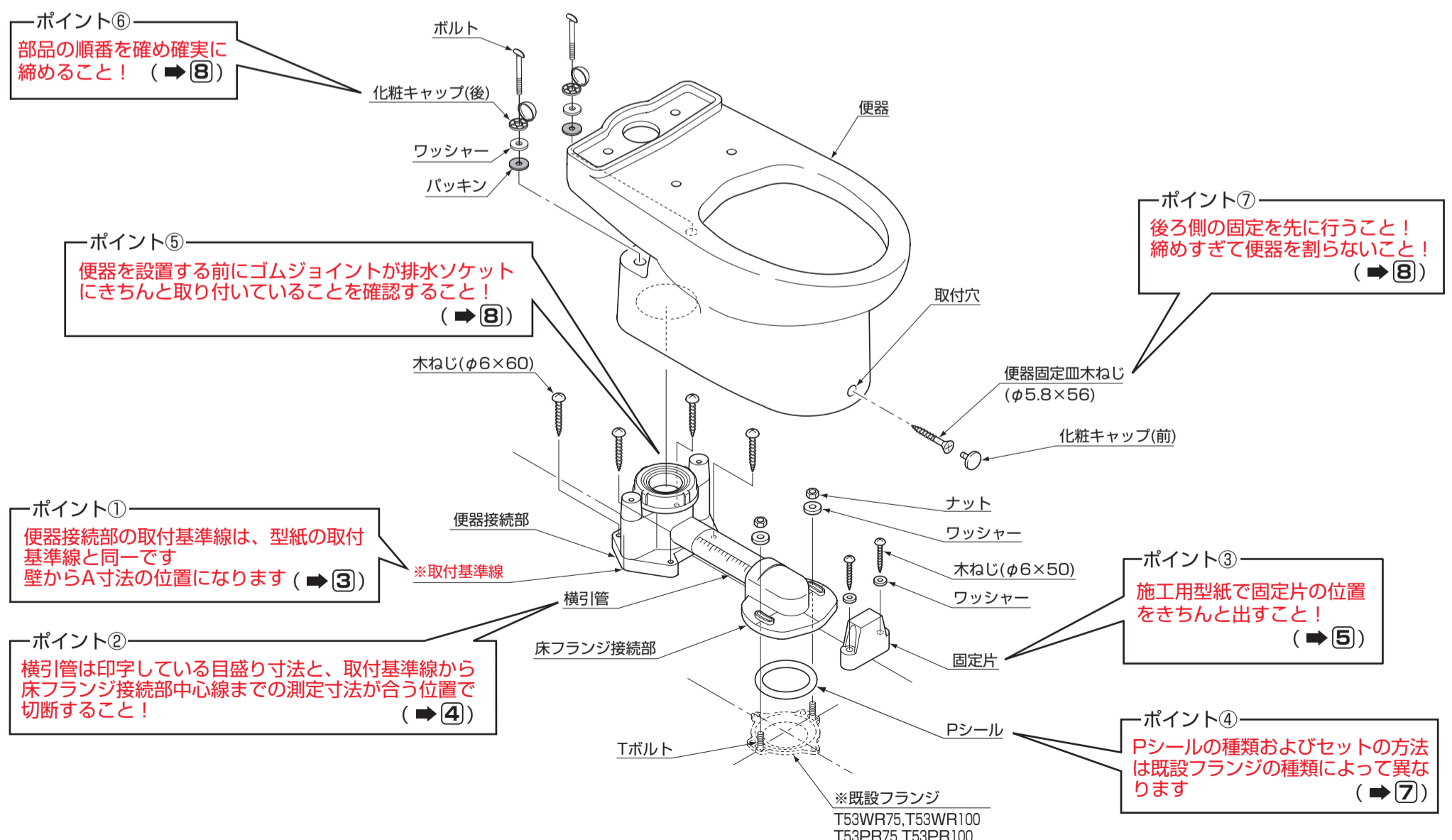
注意	
	禁止 便器に強い力や衝撃を与えない 便器が破損してけがをしたり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。 給水フレキホースを無理に折り曲げたり、たばこの火やカッターなどで、傷をつけない 給水フレキホースが破損し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
	必ず実行 設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する 正常な取り付けができなくなる可能性があります。 設置工事は、この説明書に従って確実に 故障や水漏れの原因になります。 フィルター掃除をするときは、必ず止水栓を閉め、タンクの水を流してから行う 水圧でフィルターが飛び出してくることがあります。

同梱部品

※部品があるか、下表を参照して確認してください。

便器本体		排水アジャスター		
		便器接続部	横引管	床フランジ接続部
	(1個)			
		(1個)※ゴムジョイント付き	(1個)	(1個)
Pシール		化粧キャップ袋		
金属フランジ用	樹脂フランジ用			
		化粧キャップ(後) (2個)	化粧キャップ(前) (1個)	ボルト (2本)
(1個)	(1個)	ワッシャー (後部固定用) (φ22:2枚)		パッキン (2枚)
固定片・固定金具類				その他
木ねじ (便器接続部用) (φ6×60:4本)	木ねじ (固定片用) (φ6×50:2本)	ワッシャー (固定片用) (φ13:2枚)	固定片 (1個)	施工用型紙 (1部)
皿木ねじ (φ5.8×56:1本)	Tボルト (2本)	ナット (2個)	ワッシャー (床フランジ接続部用) (φ22:2枚)	施工説明書 (1部)

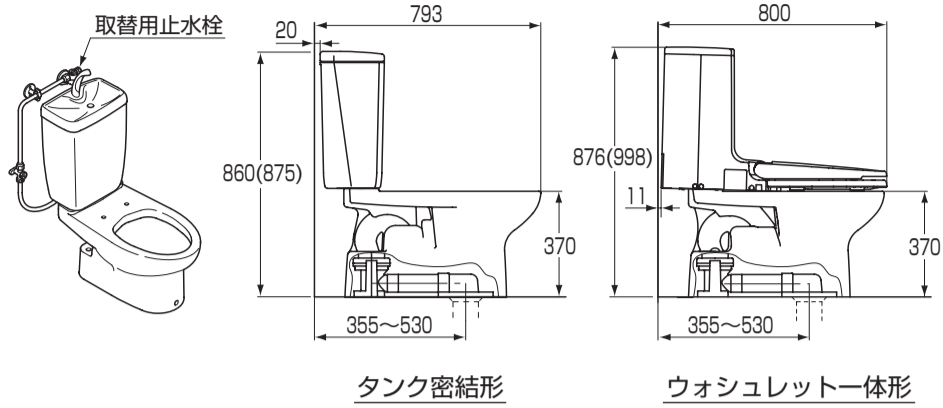
各部のなまえと施工のポイント



完成図

〈取替用止水栓がタンクと接触しない場合〉

(単位: mm)

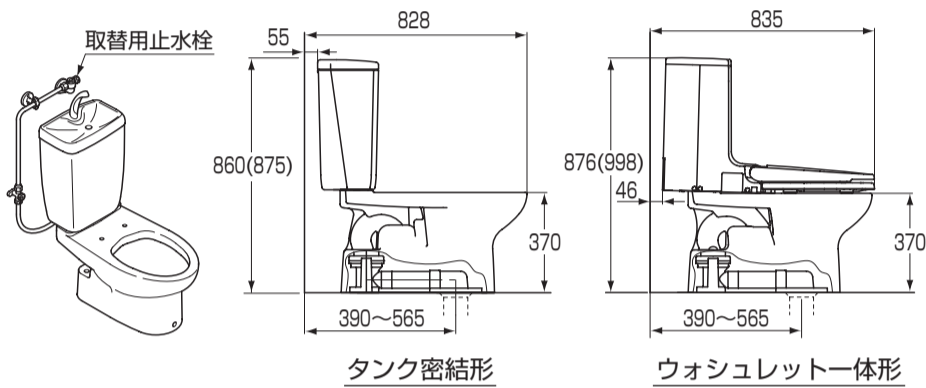


タンク密結形

ウォシュレット一体形

()内寸法は手洗い付きの場合

〈取替用止水栓がタンクと接触する場合〉



タンク密結形

ウォシュレット一体形

()内寸法は手洗い付きの場合

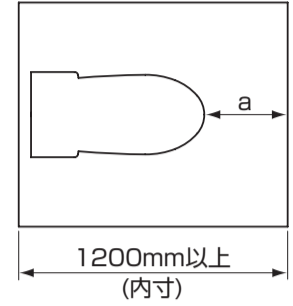
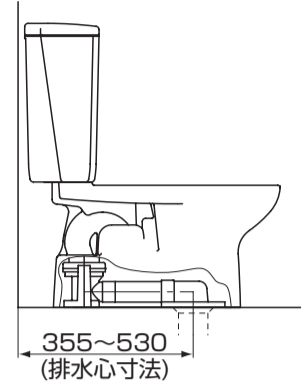
(注) C730からの取り替えの場合、排水心が壁から540mmにあるため、タンクと壁のすき間は密結形便器が30mm、ウォシュレット一体形便器が21mmとなります。

施工前のご注意

(単位: mm)

1. 取替対応可能排水心寸法

2. トイレブース奥行き必要寸法



- 注1. 取り替え前の便器の排水心が355mm~530mmの範囲であることを確認してください。
- 注2. 止水栓取付位置がタンクの裏側にありタンクと接触する場合は、便器を壁から離す必要があるため、対応可能排水心ならびにトイレブース奥行き必要寸法が異なります。
- 注3. a寸法は標準400mmとなっておりますので、この寸法を確保できない場合は、狭くなることを事前にお客様にご了承いただいたうえ、設置願います。
- 注4. ドアの開閉に支障のないことをご確認ください。
- 注5. 施工前には、埋設されている給水配管などの破損を防止するため、位置を確認してください。

取替用給水金具(別売品)の使用可能範囲

別売品でC14、C21、C420の取替用給水金具を準備しています。それらの使用可能範囲は下図の範囲内(斜線、赤)に給水取り出しセンターがある場合です。ただし、上記3品番以外の便器からの取り替えの場合は、別途現場手配いただくことになります。

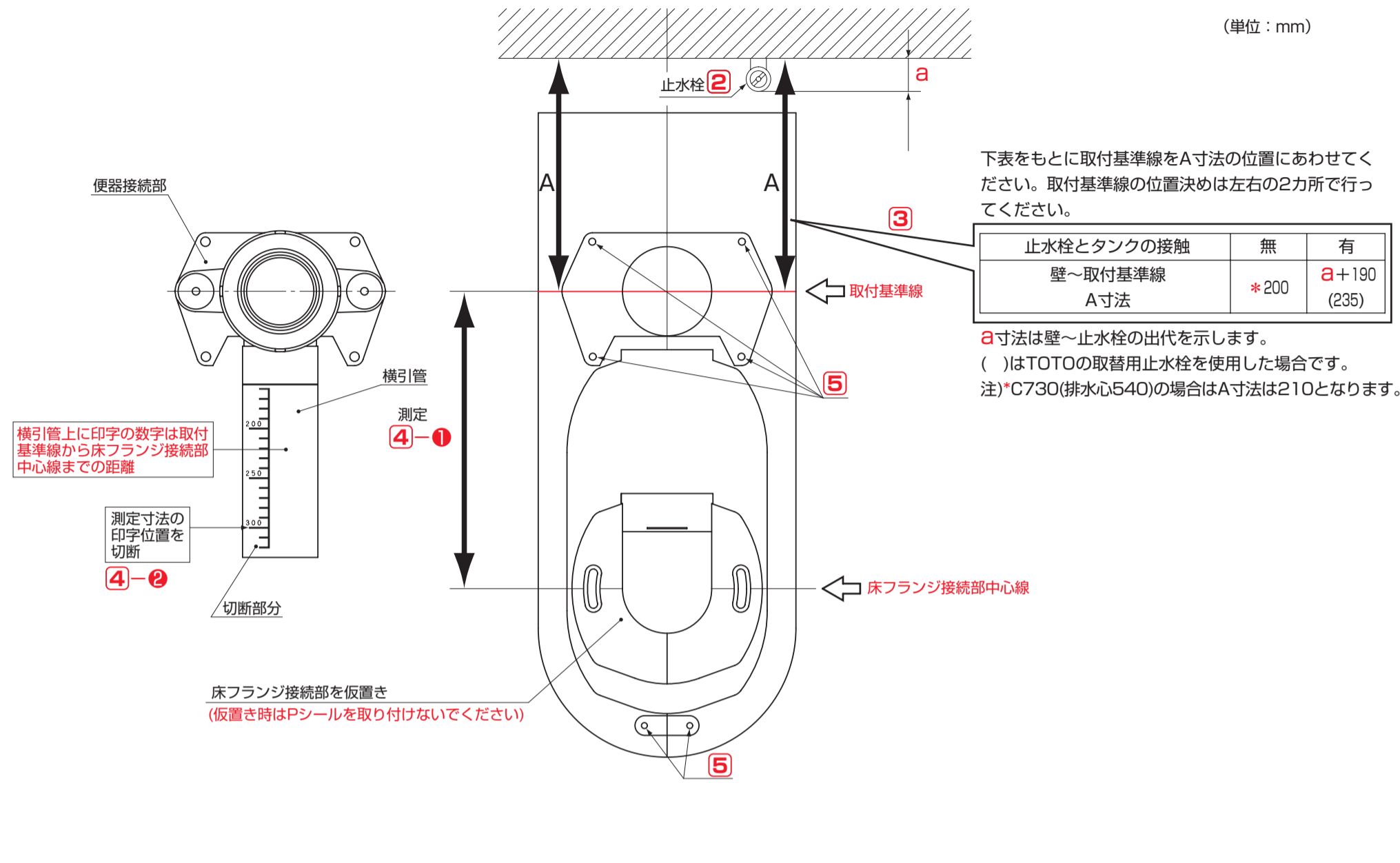
■ 止水栓とタンクが接触しない範囲
 ▨ 止水栓とタンクが接触する範囲

リモデル便器	タンク密結形				ウォシュレット一体形	
	一般地用タンクの場合 ※タンクの給水位置がタンクの底面にあるタイプ		寒冷地(流動)タンクの場合 ※タンクの給水位置がタンクの側面にあるタイプ		手洗いなし	手洗い付き
既設便器	手洗いなし	手洗い付き	手洗いなし	手洗い付き	手洗いなし	手洗い付き
C14、C21 (注) C21で赤範囲の場合は給水位置をタンクの接触しない位置へ変更してください。	TS91FUR (取替用止水栓)		TS791F1UR (取替用止水栓)		TS91F1UAR (取替用止水栓)	
			『左記一般地用タンクの場合と同様』			
C420	取替用給水金具(別売品)は不要です。 止水栓の向きを上→下に変えて、給水フレキホースにつないでください。				取替用給水金具(別売品)は不要です。 既設止水栓を外して、機能部側同梱の止水栓と交換のうえ、給水フレキホースにつないでください。	
					『現場調達』 	

施工用型紙と排水アジャスターの位置関係

同梱の施工用型紙は、排水アジャスターの横引管の切断位置を決めるのに用います。また、排水アジャスターの便器接続部と便器固定片の木ねじのけがきにも使用できます。

図中の数字は下の便器施工要領の手順番号を示します。



取付方法

便器の施工、排水アジャスターの組み立ては便器同梱の施工用型紙をご利用ください。また、取替用止水栓の施工に当たっては、取替用止水栓の施工説明書をご覧ください。

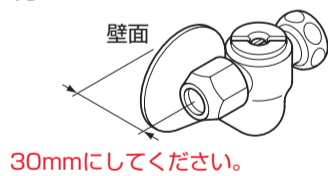
1 既設便器の取り外し

既設のタンクと便器を取り外し、Pシールをきれいに取り除く。その後、便器の中心線を床にけがく。

2 取替用止水栓の取り付け

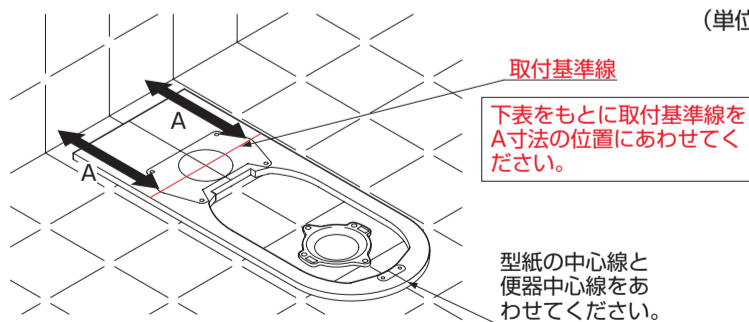
既設の止水栓を取り外し取替用の止水栓を取り付ける。

*別途現場手配の場合は止水栓の位置、前出寸法を確認してください。



3 取付基準線の位置あわせ

(単位：mm)



止水栓とタンクの接触	無	有
壁〜取付基準線 A寸法	*200	a+190 (235)

a寸法は壁〜止水栓の出代を示します。

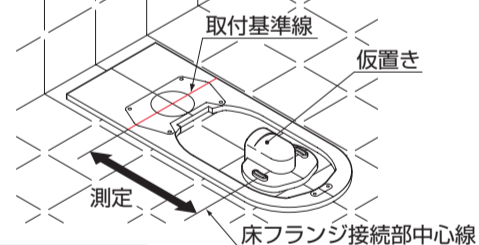
()はTOTOの取替用止水栓を使用した場合です。

注*C730(排水心540)の場合はA寸法は210となります。

4 横引管の切断

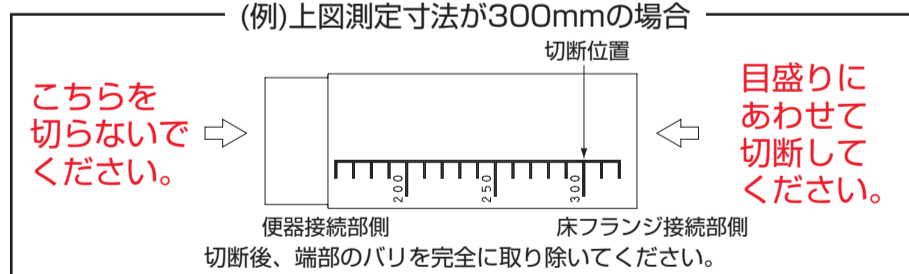
①取付基準線から床フランジ接続部中心線までの寸法測定

既設フランジの上に、床フランジ接続部を仮置きし、取付基準線と床フランジ接続部中心線との寸法を測定する。このとき、Pシールは取り付けしないでください。



②排水アジャスター横引管の切断

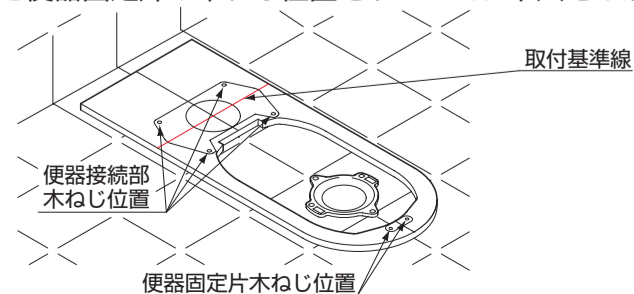
横引管上に印字している目盛り寸法と測定寸法が合う位置で横引管を真っすぐに切断する。切断後、端部のバリを完全にに取り除く。



(注) 上図測定寸法が155mmの場合、横引管は不要です。便器接続部と床フランジ接続部を直接つないでください。

5 木ねじ穴のけがき、下穴あけ

取付基準線から壁までの寸法の位置決めを行った排水アジャスターの便器接続部と便器固定片の木ねじ位置をけがいて、下穴をあける。



6 排水アジャスターの組み立て

⚠️ 注意

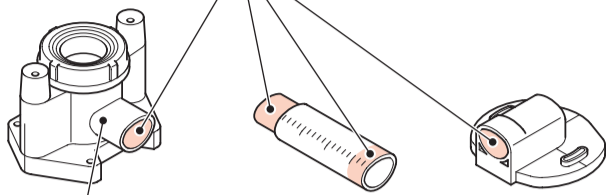


必ず実行

横引管は最後まで、きちんと押し込む
接着が不十分だと水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

床面に対してガタツキがないように接着する
ガタツキが大きいと水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

塩ビ用接着剤を十分塗布して組み立てる。



横引管を使用しない場合、この面にも塩ビ用接着剤を十分塗布してください。

7 固定片・排水アジャスターの取り付け

⚠️ 注意

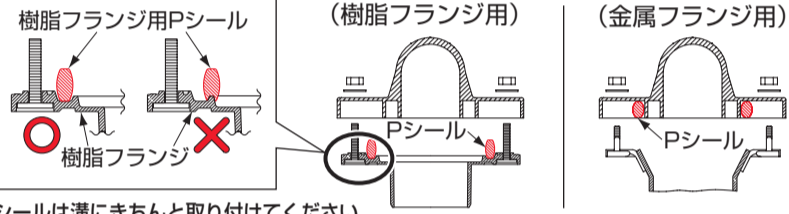
Pシール取り扱い上の注意

- 既設の床フランジのタイプにあわせ、必ず同梱（再取り付け時は同品番）の金属フランジ用Pシール（補修品番：TH633）または、樹脂フランジ用Pシール（補修品番：TH633-3）を使用する
- 既設のフランジタイプによって、Pシールのサイズと取付方法が異なるので、注意する

Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や便器が詰まり汚水があふれたり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行

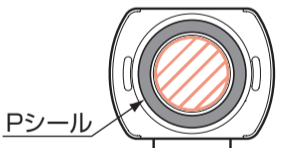


Pシールは溝にきちんと取り付けてください。

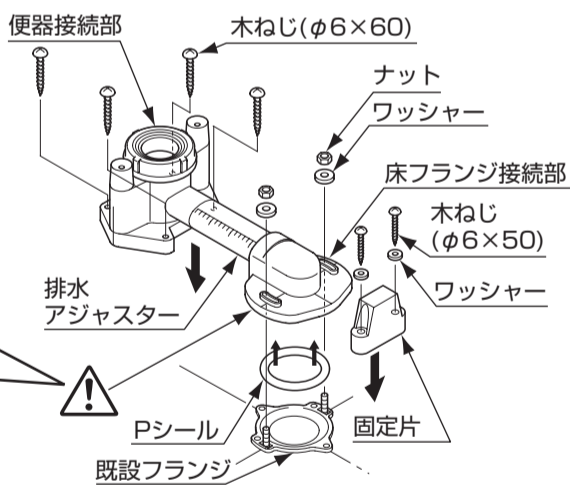
- ＜樹脂フランジの場合＞ Pシール（樹脂フランジ用）をフランジにセットする。
＜金属フランジの場合＞ Pシール（金属フランジ用）を排水アジャスターにセットする。
- 排水アジャスターをフランジに押し付けてから、便器接続部の取付穴（4カ所）に木ねじを入れ、確実に締める。
- 床フランジ接続部（排水アジャスター）を、ワッシャー・ナットで既設フランジに固定する。
- 固定片を所定の位置にあわせて、ワッシャー・木ねじで床に固定する。

注意

Pシールが排水路部分（斜線内）に入らないようにセットしてください。洗浄不良の原因になります。



Pシール
（床フランジ接続部裏面）
※図は金属フランジの場合



※気温が下がるとPシールが固くなる場合があります。このときは、20～30℃のぬるま湯の中に、包装袋ごと入れて柔らかくして使用してください。

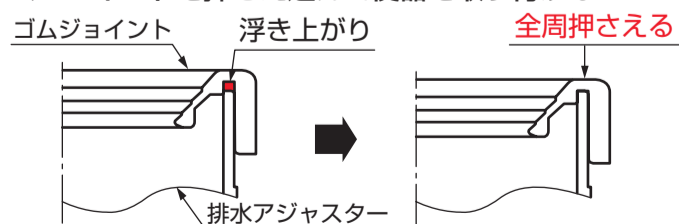
8 便器の取り付け

⚠️ 注意



必ず実行

便器を取り付ける前に、ゴムジョイントが排水アジャスターにきちんと取り付けられていることを確認する
きちんと取り付けしていないと水漏れするおそれがあるので必ず、ゴムジョイントを押し込んで便器を取り付ける

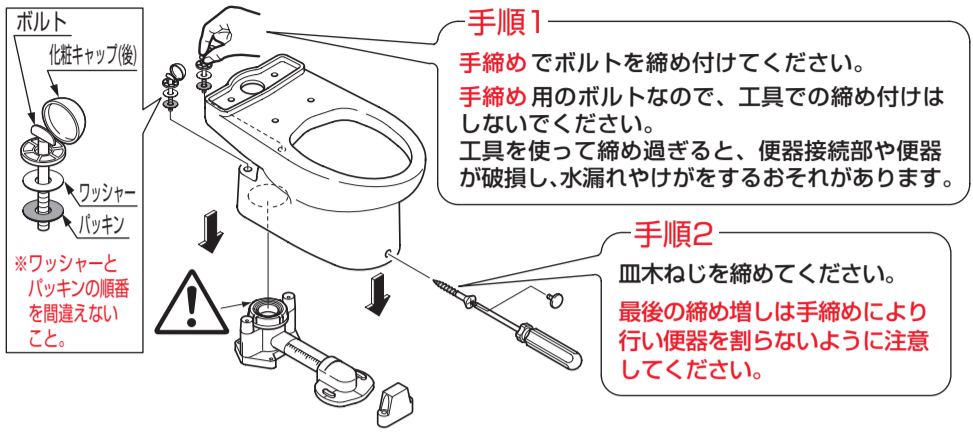


便器後部の固定を必ず先に行うこと

前側の固定を先に行くと便器が後方へスライドし、ゴムジョイント部から水漏れするおそれがあります。

8 便器の取り付け（つづき）

便器排水口および排水アジャスターの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、便器排水口を排水アジャスターに差し込む。



手順1

手締めでボルトを締め付けてください。
手締め用のボルトなので、工具での締め付けはしないでください。
工具を使って締め過ぎると、便器接続部や便器が破損し、水漏れやけがをするおそれがあります。

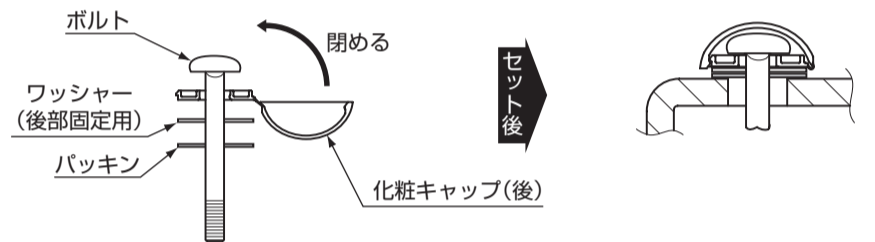
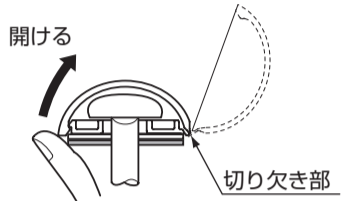
手順2

皿木ねじを締めてください。
最後の締め増しは手締めにより行い便器を割らないように注意してください。

9 化粧キャップ付きボルトの構造

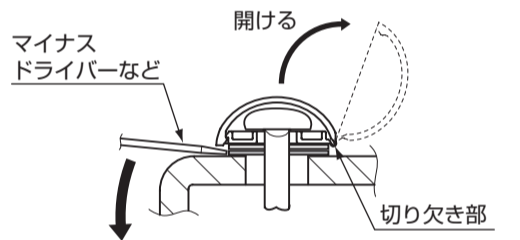
＜取り付けかた＞

- 最初に化粧キャップを開ける。
開けかたは、ボルトを手で持ち、切り欠き部をよけて化粧キャップ（後）の下部を矢印の方向に指で押し上げる。
- ボルトを取り付ける前に、ワッシャーとパッキンの順番を間違えないように取り付ける。
- ボルトを取り付けたあとは、化粧キャップ（後）を矢印の方向に曲げて、「パチッ」と音がするまで閉める。



＜取り外しかた＞

施工後にボルトを外すときは、マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップ（後）の切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開ける。



10 タンクの取り付け

タンクの取り付けに当たっては、タンクに付属の施工説明書に従う。

取り付け後の確認

- 試運転（洗浄）後、便器ボウル内に配管の切粉など異物がないことを確認してください。もらいさびなど異物付着の原因となるおそれがあります。
- 陶器表面に傷などが無いことを確認してください。陶器表面に金属類（時計のバンド、ベルトのバックルなど）が強く接触したり、こすれたりすると黒や銀色のスジ状の跡が付くことがあります。スジ状の跡が付いた場合は、当社製品「蛇口まわりのクリーナー」で軽くこすって除去してください。
- 施工したあとは、便器ボウル内に油などの見えない汚れ（コーキング剤、配管用接着剤など）の付く場合がありますので、トイレ用中性洗剤（研磨剤なし）を使って、必ず汚れをふき取ってください。便器ボウル面の洗い残りの原因となります。

お客様に快適に使っていただくためのポイント

トイレ床材に防水加工がされていないフローリング（木質系）を使用すると、こぼれた小水や結露水などが便器と床材のすき間に入り込み、床シミが発生することがありますので、おすすめできません。フローリング（木質系）を使用される場合は、便器ハカマ下部周囲に防カビ性のシリコン系シール材（メジシール）を充てんすることをおすすめします。

